

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.146

2012/01/20

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会



リョウブが大半を占める

福井県境の峠から伊吹方面を望む(12/01/01)



守護岩に保全活動の安全を祈願(12/01/01)

2012年「守護岩詣」は、近年にない好天に恵まれ好スタートが切れました。昨年は本会発足10周年記念事業であるシンポジウム・「山門水源の森一里山の再生と保全の10年」の刊行・公機関主催の多様な事業・林内の広範囲の整備等々質・量ともに多くの活動が出来ました。これに関わった会員の延べ人数は1,000人を超えました。加えて各界の協力を加えると1,500人を超えるという大規模な活動でした。今年には本会の組織も次の世代へ引き継ぎ、次の10年へ飛躍する年にしたいものです。保全活動も目先の成果にこだわることなく、20年先を見越した厚みのある活動にしてゆきたいものです。そのために会員以外の保全活動への参加がし易いシステムの開発も必要と思われます。総会ではこれらについても議論したいと思います。



県境の峠で伊吹山を挟んで(12/01/01)

今冬は少ないシカの足跡

昨年南部湿原のミツガシワの食害防止のため設置したネットには、8頭ものシカがかかりました。また湿原の内外でシカを見る機会も多く、



獣道も観察コース意外にも縦横無尽に走っているのが観察されました。しかし12月の降雪以降殆ど足跡が見られません。これは例年にないことです。積雪を避けて他の地域に移動したことも考えられます

が本当のところは分かりません。また昨年は1年を通じて1回もカモシカを見ていません。こちらは確実に数が減っているようです。他地域でもシカの多い所では、カモシカの数が増えていることが報告されています。積雪期に入った森で比較的頻繁に観察される動物の足跡は、ノウサギ・キツネ・タヌキ・ニホンリス・テン等です。

林床整備は延々と

冬季は林相確認には最適です。常緑樹以外は落葉しているため枯死木や倒木等の林内での様子を確認するのに都合がいいというわけです。積雪期のパトロールの一つの目的この観察があります。雪解け後の林床整備の計画を立てるためです。



上の画像は、毎年林床整備を行っている「四季の森」の状況です。1年でこの状態になります。中には太い枯死木も見られます。観察コース沿いの太い枯死木は、来訪者の危険を避けるため出来る限り伐採します。しかし全ての枯死木を伐採しているわけではありません。樹種を考えサメコやヒラタケ等のキノコの発生が期待できるものは残しています。これも生物多様性保全の一環です。森の一面でこの状態ですから、森全体となると林床整備だけをとっても際限はありません。この作業は延々と続くことになります。これが生活を伴わない森の保全作業の大変なところですよ。

冬ならではの観察

既号でも琵琶湖の「湯湯婆」効果について書きましたが、それを肉眼視できるのが今のシーズンです。左下の画像は琵琶湖の影響で山地の下部に積雪がない状態です。



右の画像は湿原に霧水が発達した状態ですが、湖岸に近い永原近くでは水蒸気量が多いので全域が真っ白になるほど発達しました。

